

VS-XX譲りのメッシュとヒネリスポークが、奇跡のレトロモダンを生んだ

過去の名作が持ち得た独創のエッセンスを、現代のセンスとサイズ感でアレンジ。その手法はレトロモダンと評され、ここ数年のホイール業界を牽引する重要な役目を担ってきた。そして2020年、レトロモダンは「シーカーMX」の登場によって、次なる領域へと大胆に歩を進める。

この作品が既存のホイールと明確に違うのは、2つのデザインをミックスさせた点にある。1つ目のデザインは、主力としてワークの看板を長年背負ってきた「VS-XX」のメッシュだ。10交点スポークが織りなすディスクは、絶対的性能の現れであると

同時に、長年だれもが親しんできた安心感のある表情を露出。このパターンを若干のアレンジとともにセンターに据えることで、まずはメッシュ支持者にVS-XXの流れを汲むことを鮮烈に知らしめた。

次なるデザインは外周に配した10スポークだ。それもヒネリが加えられたせいで、スピード感やメカニカルな印象が一気に増幅。つまり、定番のメッシュと現代的なヒネリスポークがマリッジした結果、単なるレトロモダンとして片付けることのできない、未知なる世界観が誕生したと言っている。

VS-XXでデフォルトだったピアスボルトは、シ

ーカーのルールに従って、ここでは不採用に。代わりにスポーク間に変形ディンプルを配置。ところがこれが物足りなさを解消したばかりか、躍動感の演出として抜群の効果を生むとは、製作陣にとってもうれしい誤算だったに違いない。

広報資料によると、ワークが購買層として狙うのは、どうやらオールドタイマーなスタンス系らしいが、その術中にハマってみるのもいいし、意表を突いて高年式モデルに合わせてみる誘惑も捨てがたい。いずれにせよシーカーMXは、愛車にかつてないインパクトをもたらす！

THE
Wheel
TRENDS 03

WORK
Seeker MX

MACCHINA
ABARTH 595 TOURISMO

ABARTH 595 TOURISMO 2013

WHEEL WORK>>Seeker MX F:18×8J+8 R:18×8.5J+12 Finish:Silver Disk+Gloss Black Rim

TIRE NANKANG>>NS-20 F:205/35R18 R:205/35R18

SUSPENSION KW>>Ver.3 Adjustable Coilover

EXHAUST RECORD MONZA>>Muffler

EXTERIOR MACCHINA>>Body Styling Kit(Front Lip Spoiler/Side Flap Spoiler/Rear Gate Wing/Over Fender Kit),

Front Grille/Wiper Arm/Door Mirror/Rear Diffuser Water Slide Decal, 3M>>1080 Film Midnight Blue Wrapping

INTERIOR MACCHINA>>Steering Wheel/Huracan Stitch Seat/Door Trim Re-Upholstery, Floor Mat, Dashboard Water Slide Decal

■シーカーMX SIZE&SPEC

SIZE	HOLE/P.C.D.	RIM	PRICE(税別)
18	4/100, 5/100, 5/114.3	7.5~11.5J	5万8000~8万8000円

●カラー/カットクリア、マットブラック(セミオーダーカラー12色、カラリズム6色、カラリズムムクリア5色、センターキャップ5種、リムアレンジ6色あり)

*特殊P.C.D.(4H98~100, 5H98~120.65)は+6000円



01シーカーの兄貴分「グランシーカーDMX」とコンセプトを共有するも、そちらはサイズが20インチのみ、スポークの本数が1本少ないなど、ディテールに差異を残す。ちなみにMXとは、メカニカルクロスの略。02外周のスポークも決して単調なものではない。ヒネリのほかに内側に削り込んだかのような跡を残し、リム側にはピアスボルトの代わりにディンプルを刻み込むのだ。



03エアロパーツはマッキナのオリジナル品。デモカーということもあり、上半分にブルーのラッピングを施してツートンにイメチェンしたり、バンパー内側などにカーボンの水圧転写を施工するなどの工夫を凝らす。04アバルト595の爆發力を、さらに高めてくれるマッキナのオーバーフェンダー。片側25mmワイド、アーチ下げ10mmをフェンダーカットなしに実現できる。フィアット500、アバルト695でも前期型ならば取り付け可能だ。05シートやドアトリムはランボルギーニウラカン同様のステッチ入りで張り直され、ダッシュボードもウッドの水圧転写を施工してゴージャスな見栄えに。06標準設定のホイールカラーはカットクリアとマットブラックの2色。しかし、セミオーダーなども受け付けているので、独自のアレンジも可能になる。デモカーのアバルト595はホイールを小径に見せる狙いから、リムをグロスブラックにしたという。



メカニカルクロス、出撃

CALL>>WORK(ワーク)東日本コールセンター TEL:048-688-7555, 西日本コールセンター TEL:06-6746-2859, 中日本コールセンター TEL:052-777-4512 www.work-wheels.co.jp
MACCHINA(マッキナ) TEL:072-446-3733 www.macchina-style.com
PHOTO>>RYOTA SATO(佐藤亮太/サッカス)
TEXT>>AKIO SATO(佐藤アキオ/rsf)

